



『越後野志』巻十五（部分）所蔵：新潟県立図書館（企画展「八十里越を行く」パネルから）

中和泉家文書「会越八十里越山道之図」所蔵：新潟県立文書館（企画展「八十里越を行く」パネルから）

歴史の道 八十里越

八十里越とは、三条市吉ヶ平を起点に福島県南会津郡只見町叶津までの道程8里（約32km）の中越後地方と奥会津地方を結ぶ最短の峠道です。両地方の遺跡から出土した。同型のナイフ形石器から、今から1万5千年前の旧石器時代に八十里越の往来の原点を見ることができます。

戦国時代から江戸時代にかけては、越後と会津、そして東国に通じる政治的にも、軍事的にも重要な街道であり、その両入口には人と物の出入りを監視する口留番所と呼ばれる関所が置かれました。

八十里越の名前の由来については、江戸時代の

後期の地誌『越後野志』巻15の「國境小径 蒲原郡 八十里越」の項に、「(略) 大行路難ノ地故、一里ヲ十里ニ比シ八十里越ト云、(略)」と書かれています。8里が平地の80里に匹敵するほどの難路であったため、8里の峠道を「八十里越」と呼んだとしています。

険しい難所が続く八十里越は、戊辰戦争の際には、奥羽越列藩同盟軍や新政府軍が越えて軍事的に重要な役割を果たし、さらに、明治時代中期には荷車が通れる車道として大改修され、多くの人や物の往来の道として賑わいました。

八十里越 ルートの変遷

八十里越は、大改修が3回行われています。
 ①「古道」：江戸時代天保14(1843)年の工事で牛馬が通れる道になりました。
 ②「中道」：明治14(1881)年に開削され、新潟県側は旧路線を改修し、福島県側は遅沢から木ノ根に至る新路線としました。
 ③「新道」：明治22～27(1889～94)年の大改

修で、荷車の通行を可能とし、新潟県側は旧路線を用い、福島県側はさらに新路線としました。
 そして、今新たに、歴史の道を受け継いで、未来に続く八十里越、国道289号の工事が進められています。

V 歴史の道 八十里越

